
SHUEI

B A S E B A L L T E A M

2026



“挑め。未完のチカラ”

強くなるために、私たちは挑戦し続けます。

答えは与えられるものではなく、挑戦の先に自分たちの手で形にするものです。

うまくいかなくていい。失敗してもいい。だからこそ、立ち止まらずに動き、考え、挑み続けます。

失敗は、次の問いを生み出す大切な材料です。

勇気を出して踏み出した経験は、必ず自分の財産になります。

楽な道や逃げ道は選びません。自分で決めたことを、最後まで貫く。その積み重ねが、人としての強さになると信じています。

本気を伸ばし、エネルギーを止めない。バイタリティあふれる仲間を待っています。

秀英高等学校硬式野球部
監督 佐々木勇人

大切にしている理念

“未完の設計図”

未完の設計図とは、はじめから答えを与えず、自ら考え挑戦し続けるチームを実現するための理念です。失敗を学びに変えながら、一人ひとりが主体的に成長し、自分たちの手でチームをつくり上げていきます。

身につくチカラ

- 🍊主体性：自ら考え、選び、行動する力
- 🍊挑戦力：失敗を恐れず、一步を踏み出し続ける力
- 🍊継続力：自分で決めたことを、最後までやり抜く力

・・・野球を超え、🍊生きる力🍊になる

公式戦ユニフォーム



公式キャラクター



しゅうまん君

取り組みの様子



必勝祈願（伊勢山皇大神宮）



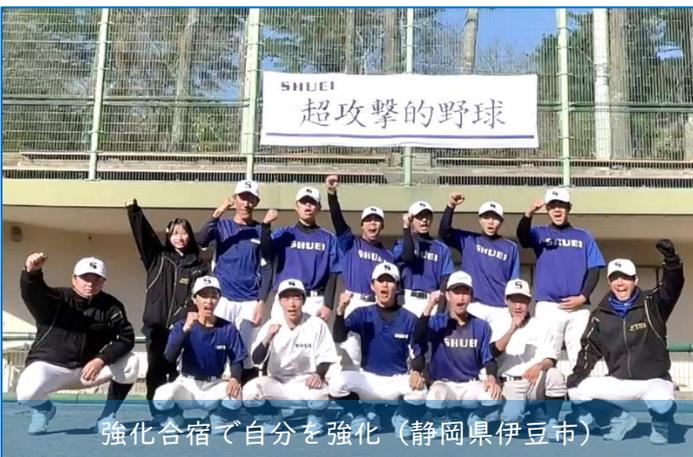
地域清掃（いずみ野周辺）



大谷学園対決（横浜隼人高校との交流戦）



翔英祭はオリジナルダンスで盛り上げる



強化合宿で自分を強化（静岡県伊豆市）



8年ぶりの校歌（2025年夏）

自主自律 自力貢献

- (1) 自らの意志で行動できること。
- (2) 自分を管理（コントロール）する力を身に付けること。
- (3) 自分の存在が世のため人のためになるよう貢献できる人格を形成すること



部室を綺麗に！！！！

（2023年12月）

長年使用し、汚れや落書きの多かった部室を自分たちの手でリノベーションしました！
（左）リノベ前（右）リノベ後

練習場所



秀英高校グラウンド(泉区)



瀬谷本郷球場(瀬谷区)

※週に2回程度使用

OUR HISTORY

野球部の歩み

- 1992年 創部
- 2023年 監督に佐々木が就任し、新チームがスタート
- 2024年 秋季地区予選で市立南高校を相手に延長11回タイブレークで勝利
単独チームを相手に、初めての公式戦勝利を飾る
- 2025年 第107回神奈川大会で港北高校に勝利し、8年ぶりに勝利の校歌を歌う



新チーム初の対外試合(2023)

～ この先の歴史を、共に築こう ～



新体制で迎えた初めての夏(2024)

ACTIVITY CONTENTS

主な年間行事

- | | | | |
|----|----------------------------|-----|--------------------------------|
| 4月 | 入学式
春季地区予選／県大会 | 11月 | 横浜西部地区交流戦 |
| 5月 | 福島遠征(宿泊遠征) | 12月 | 冬季静岡キャンプ(強化合宿)
年末休み |
| 6月 | 壮行会(夏の神奈川大会) | 1月 | 必勝祈願(伊勢山皇大神宮)
地域清掃／ボランティア活動 |
| 7月 | 三重遠征(宿泊遠征)
選手権大会(甲子園予選) | 2月 | 環境整備 |
| 8月 | 秋季地区予選 | 3月 | 卒業式・卒業を祝う会
練習試合解禁 |
| 9月 | 秋季県大会 | | |

※年間の対外試合数は約120試合(公式戦を含む)

※シーズンオフは野球以外の教育活動も盛んに行う



記録員としてベンチに入った秀英の蔵根美結マネジャー＝伊勢原

秀英初の女子部員

「部に貢献したい」

蔵根美結マネジャー

秀英のベンチに記録員として入った1年生マネジャーの蔵根美結さん(15)は、同校野球部初の女子部員。今春、学校が男女共学となり、女子生徒でただ一人、入部した。

中学時代はソフトテニス部員だったが、高校にはテニス部がなく、各部を回る中で「野球部がすごく活気があり、ここで自分も貢献したいと

思った」という。

野球の知識はほぼゼロ。プロ野球を見ることもほとんどなかった。監督や選手からスコアの書き方を習い、家でもネットで調べて独学した。練習中、つらそうな選手を見かけると、積極的に声をかけるよう心がけた。

この日も、試合前の緊張でカチカチだった選手たちに自分から話しかけていった。残念ながらコールドで敗れたが、「来年は必ず勝てるはず。それまでベンチワークなど、自分にできることをやっていきたい」。今は野球部が「とても楽しい」と笑顔で話した。(中島秀憲)

わが人生

50



2017年夏の県大会での
本田仁海(左)田島大輔(右)
のバッテリー



現在、私(中)を支えてくれている
高橋航平(左)と右寺悠城(中)
と2024年、横浜スタジアム

星槎国際高校湘南野球部監督

土屋 恵三郎

星槎からプロ入り第1号となった本田仁海(オリックス)が大きく成長したのは1年生の冬だ。野球を始めた小学生の頃からスリークオーターで投げていたがシャドーピッチングを繰り返してチェックすると、腕の振りや腰の回転がちゃんとあった。私の提案でオーバースローをシャドーで試してみた。意外とスムーズで、次は実際に球を投げてみた。今までにない、ピュンと鋭くて強い球になった。彼は未知の世界に一歩踏み入れたような、あっけにとられた表情をしたが、何かをつかんだようだった。

本田成長の立て役者

オーバースローを習得すると、ストリーートの球速がどんどん増していき、低めにコントロール良く投げられるようになった。

2016年春、2年になった本田にエースナンバーを与えた。夏の県大会には、創部初の4回戦進出、秋はベスト8進出に貢献した。さらに春の県大会準々決勝では慶応を3-1で下し、「星槎に本田あり」を印象づけた。少年野球でエースになれず、中学校も県大会

1回戦で負けた普通の野球少年が、プロの視線を集めるまでになった。ただ、ここに至るまでは、精神面でやや不安のある本田を支えた、チームメイト田を助けた、チームメイト抜きでは語れない。まず、捕手の田島大輔(桜美林大)エイシヤック。淳志沈みがあり、サポート

主将を任されるのは珍しいが、みんなに慕われた。本田の面倒をよく見ていた。残念ながら、彼は不慮の事故でなくなった。「成人式のあいさつに行く」と私に連絡をくれたのに、川崎市川崎区で、知人のためにタクシーを拾おうとして、飲酒運転の車にはねら

は何で、意識レベルの低い人たちと、一緒に野球をしなければならぬのか」と私に食ってかかったが、実際の行動はまさに「星槎のカガミ」。レギュラーの座を1年生に抜かれても、チームをまとめてくれた。忘れてならないのは、彼らと寝食を共にし、厳しくも優しく寄り添い続けた当時のコーチ、佐々木勇人(現・秀英監督)だ。小食だった本田におにぎりを作った

せのある本田を励まし、しっかり育てた。プロ入りが決まった後も、ジムなどでトレーニングに付き合っていた。「名投手の陰には名捕手あり」を地でいく、いい。女房役だった。本田が2年の時の主将小真裕真は、岩倉(東京)から転入してきた。転校生から注目を集め、入部当初

攻守でチームを引っ張った秀英の主将渋谷桜

横浜商高グラウンド



攻め貫き乱打戦制す

【要聞】 ①：乱打戦

を制した秀英の主将渋谷桜は「徐々にほぐれて攻撃的な野球ができた」と四、五回の連続4得点を誇った。主将自身は4安打2打点、続く風間も3安打4打

点と中軸がリードしてチーム13得点。強豪校に大差で敗れる試合を多く経験し「投手を援護できる、追加点を挙げられる野球を（渋谷桜）と攻めの姿勢を貫いた。23日に横浜商（Y校）との決戦を控え、負ける気持ちは一切ない。県大会を決める

覚悟で」と決意を口にした。

杉田が雪辱アーチ

【要聞】 ②：横浜商

（Y校）は8番の杉田が本塁打を含む3安打6打点と活躍し、投げては先発山口ら3人で零封した。

武相に逆転コールド負けを喫した昨秋の県大会の反省から「冷静に次につながる気持ちで」と杉田。低い打球を意識した初回に二塁打で手応えをつかみ、左越えのアーチも描いた。

同じ公立校として選抜出場した横浜清陵の姿も原動力だ。主将松本は「誇らしい気持ちで見届けた。自分たちがあそこに立てなかった悔しさで頑張ってきたので、気持ちを全力でぶつけ」と意気込んだ。

秀英 8年ぶり白星

秀英が、2017年以来となる夏1勝を飾った。投手リレーした2年生エース関田と背番号10の3年生長谷川の2人が、互いが招いたピンチをカバーし合い、勝利をつかみ取った。長谷川は「3年間取り組んできたことが間違っていないかった」と、喜びをかみしめた。

それぞれが持ち味を出し、自分の役割を全うする気持ちが勝利をたぐ

秀英7-5 港北



●2回1安打3失点（自責点2）だった秀英の関田
 ◎7回5を投げ9安打2失点だった秀英の長谷川
 =ハマヤク（石井 啓祐写す）

勝機呼ぶ継投

「全員で」互いに支え

り寄せた。先発した関田が、先制した後の二回に3失点。2死一、二塁の場面で「後輩がつくったピンチは3年生が抑えてあげないと」と、左腕長谷川がマウンドに上がる。代わりはなごを左前打を許すも、三回以降はコーナーを丁寧に突き、スコア

ボードにゼロを並べた。四回には主将渋谷校長の同点適時打などで逆転すると、7-5で九回へ。長谷川がテンポよく2死を取ると速打で2死二、三塁とされ、ここで関田が再びマウンドに。一打同点の窮地で、高々と上がった打球が遊撃手

のクラブに収まると、歓喜に包まれた。

関田から「投手陣のお兄ちゃん的存在」と慕われる長谷川は、最後を締めた関田に感謝し「この代で1勝できて本当に良かった」と目に涙を浮かべた。渋谷校長は「誰かのミスは誰かがカバーする意識で1年間取り組んできた。一戦必勝で次も全員で勝ちにいきたい」と次戦を見据えた。

（阿部 幸康）

